

宮城県保健環境センター年報

平成14年度

ANNUAL REPORT
OF
MIYAGI PREFECTURAL INSTITUTE OF PUBLIC HEALTH AND ENVIRONMENT

No. 21 2003

宮城県保健環境センター

は じ め に

この度、宮城県保健環境センターの平成14年度における業績をとりまとめ、年報として発刊する運びとなりましたので、ご高覧の上、ご意見を賜れば幸いと存じます。

さて、近年、地球環境をとりまく重大な課題は、地球温暖化、酸性雨、環境ホルモン・ダイオキシンなどの化学物質汚染等々山積しており、また、新興・再興感染症への対応が社会的に重要な問題となっており、そんな中で、平成14年末から平成15年始めにかけ重症急性呼吸器症候群（SARS）が中国、東南アジア等で発生し世界的な混乱が生じました。幸い、日本での発生はみられませんでしたが、当センターでも国と連携をとり検査体制を整えたところであります。

当センターにおいては、感染性発生動向調査の一環として平成14年度より国の病原体検査指針に基づき実施した検査において、呼吸器感染症の原因となるヒトメタニューモウイルスを日本で初めて、世界でも希少例となる分離に成功し、さらに、ダイオキシン類分析の過程での光分解の可能性とその詳細を明確にするなど日頃の研究成果を出しております。これからの、新たな保健・環境問題への対応など社会的要請が生じてきておりますことから、私どもの機関の役割もますます大きくなっていると思っております。

一方、行政改革の基本理念に基づき当センターの見直しを平成12年4月より検討し、14年4月に保健・環境行政を支える技術的中核機関として名実とも新たな行政需要に効果的・効率的に対応できる組織再編を実施しました。具体的には微生物、試験検査部を除く5部の名称を変更し、微量化学物質を環境化学部に、県民生活に直接関係のある化学物質を生活化学部に、食中毒検査を試験検査部に一本化するなど業務内容に即した体制作りを行ったところです。

今後も、緊急時の体制強化を図りながら、試験検査、調査研究、情報の収集・解析・提供及び研修等を着実に実行するとともに地域住民の要望についての把握にも努め、時代に相応した保健環境センターを目指して参りたいと考えておりますので、皆様方のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

平成 15 年 12 月

宮城県保健環境センター

所 長 武 部 芳 明

目 次

A 事業概要

I 総 説

1 沿 革	1
2 機構及び業務分担	1
3 職 員	2
4 決 算	3
5 主要機械器具	3
6 技 術 研 修	6
7 講師等派遣	6
8 学術情報の収集	8

II 概 況

1 企画情報部	9
2 微生物部	12
3 生活化学部	19
4 環境化学部	22
5 大気環境部	24
6 水環境部	29
7 試験検査部	34
8 古川支所	36

B 調査研究

I 論 文

食中毒による健康危機の原因危害物質検索システム	39
阿部 和男 森 泰明	
感染症発生動向調査における病原体検出状況	43
秋山 和夫 佐々木 美江 山木 紀彦 後藤 郁男 佐藤 千鶴子 植木 洋 渡邊 節 畠山 敬 齋藤 紀行	
小学校における感染性胃腸炎の集団発生事例	49
後藤 郁男 山木 紀彦 植木 洋 佐藤 千鶴子 渡邊 節 鶴若 美亜 鈴木 慶彦 村上 れい子 小野 日出麻呂 秋山 和夫	
県内の牛における腸管出血性大腸菌（EHEC）保有状況	52
畠山 敬 山口 友美 佐々木 美江 渡邊 節 齋藤 紀行 秋山 和夫 今野 明日香 小川 今日子 千葉 文明 川向 和雄	

レジオネラ属菌とアメーバの関連性	56
佐々木 美江 有田 富和 畠山 敬 斎藤 紀行 秋山 和夫	
核酸増幅副生成物（ピロリン酸）の検出法を利用した食中毒菌の迅速検査	59
斎藤 紀行 秋山 和夫 遠藤 美砂子 丸山 昇	
ネコカリシウイルスを用いたマガキの浄化試験	63
山木 紀彦 植木 洋 伊藤 大介 文谷 俊雄 後藤 郁男	
佐藤 千鶴子 渡邊 節 秋山 和夫	
輸入野菜・果実中の残留農薬及び県内産りんご，日本なしの無登録農薬残留実態	66
氏家 愛子 長船 達也 曾根 美千代 大江 浩	
遺伝子組換え食品検知法の検討	70
曾根 美千代 高橋 紀世子 大江 浩	
生活環境における揮発性有機化合物の季節変動調査及び簡易モデルを用いた 室内空気浄化法の検討	75
長船 達也 氏家 愛子 赤間 仁 大江 浩	
BOD植種液の培養方法の検討	80
斎藤 善則 柳 茂 佐藤 好克 高橋 正弘	
ダイオキシン類調査結果に関する精査作業	84
中村 朋之 清野 陽子 鈴木 滋 加藤 謙一 高橋 正弘	
大気汚染物質の走行測定システムについて	88
宮城 英徳 佐藤 信俊 中村 栄一 鈴木 康民	
宮城県における大気環境中の多環芳香族炭化水素類の調査結果	90
木戸 一博 佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 佐藤 信俊	
鈴木 康民	
交通騒音評価管理システムの実証的検討について - 類型化の妥当性 -	95
菊地 英男 高橋 誠幸 鈴木 康民	
豚舎臭気のおゾン脱臭実態調査	99
新垣 康秀 小野 研一 鈴木 康民	
LC/MSによる河川水中のアルキルフェノール類の分析法の検討	102
阿部 公恵 渡部 正弘 三沢 松子 阿部 時男	
宮城県における海産巻貝類のインポセックスと体内有機スズ濃度	106
三沢 松子 阿部 郁子 佐久間 隆 氏家 愛子 阿部 時男	
カンピロバクター・コリによる食中毒事例	112
名村 真由美 千葉 美子 那須 務 川野 みち 梅津 幸司	
秋山 和夫 鈴木 隆	

II 資 料

宮城県における新生児マス・スクリーニング	117
佐藤 由美 菊地 奈穂子 沖村 容子 秋山 和夫	
宮城県における神経芽細胞腫マス・スクリーニング	119
佐藤 由美 菊地 奈穂子 沖村 容子 秋山 和夫	
健康食品の分析事例について	122
高橋 紀世子 佐藤 信俊 大江 浩	
LC/MSによる残留農薬一斉分析	126
氏家 愛子 長船 達也 大江 浩	
OASISカートリッジを使用した食肉中残留動物用医薬品一斉分析法のLC/MSへの応用	129
赤間 仁 石川 潔 大江 浩	
平成14年度生活化学部検査結果	132
生活化学部	
宮城県におけるダイオキシン類の測定法	136
鈴木 滋 中村 朋之 清野 陽子 加藤 謙一 高橋 正弘	
大気中の揮発性有機化合物調査	141
佐久間 隆 小泉 俊一 北村 洋子 木戸 一博 佐藤 信俊	
鈴木 康民	
伊豆沼のカラス貝生息調査（水質浄化能評価の一部として）	143
渡部 正弘 栗野 健 小山 孝昭 阿部 時男	
宮城県内ダム湖におけるアオコ発生状況	145
渡部 正弘 牧 滋 栗野 健 小山 孝昭 三沢 松子	
吉田 德行 阿部 時男	
伊豆沼・内沼の「巻上現象」を利用した底質除去試験（その ）	147
渡部 正弘 栗野 健 小山 孝昭 阿部 時男	
「鳴瀬川の水循環特性（環境共生を目指した健全な水循環）」 （H13～14年度経常研究の要約版）	149
清野 茂 阿部 時男	
水道施設における生物学的な水質調査（第2報）	154
那須 務 名村 真由美 千葉 美子 菅原 優子 川野 みち	
加藤 玲子 梅津 幸司 鈴木 隆 千葉 圭子 後藤 つね子	
日野 久美子 氏家 雪乃 小林 妙子 加茂 えり子 及川 敏彦	
坂本 和臣	
酵母Two-hybrid法を用いたエストロゲン様活性測定法の検討	157
名村 真由美 千葉 美子 梅津 幸司 鈴木 隆 三沢 松子	
阿部 時男 有田 富和 秋山 和夫	

食品中の黄色ブドウ球菌エンテロトキシン検査法の検討	160
後藤 つね子 日野 久美子 氏家 雪乃 小林 妙子 及川 敏彦	
坂本 和臣	

Ⅲ 調査研究課題一覧	163
------------------	-----

C 研究発表状況

I 他誌論文抄録	165
----------------	-----

II 学会発表等	171
----------------	-----

III 研究発表会	175
-----------------	-----